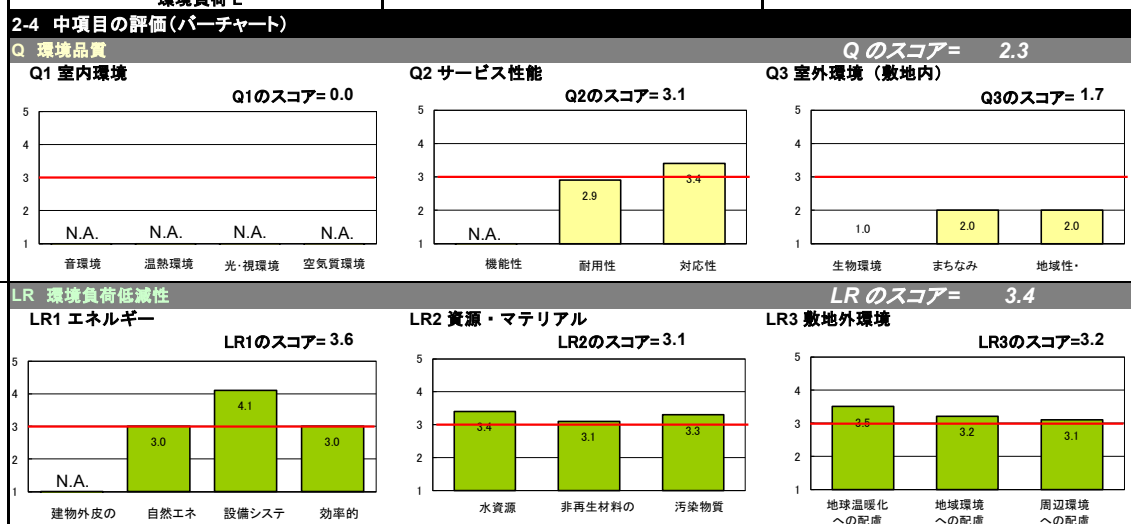
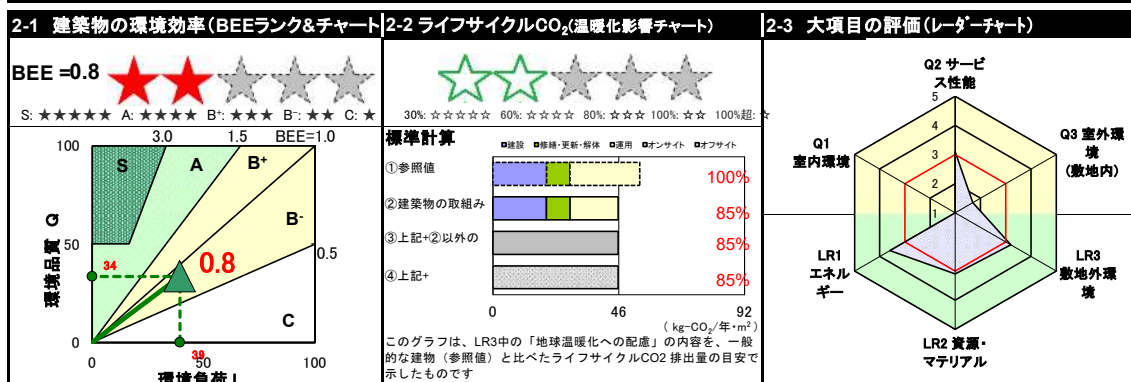


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	前原 第3工場	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県大府市大字前原字大庭新田1番5、54番3、54番5、54番8、54番15、54番18	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	58 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年4月11日
敷地面積	2,675 m ²	作成者	TSUCHIYA株式会社 名古屋支社 一級建築士事務所 川田 大男
建築面積	1,075 m ²	確認日	2025年4月11日
延床面積	3,043 m ²	確認者	TSUCHIYA株式会社 名古屋支社 一級建築士事務所 川田 大男



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.5	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		13.2 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.1	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 LR-3.1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性
 LR-2.2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
前原_第3工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.3	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-		
1.3 吸音				-	-	-	-	-		
2 温熱環境				-	-	-	-	-		
2.1 室温制御				-	-	-	-	-		
1 室温				3.0	-	-	-	-		
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-		
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-		
3 光・視環境				-	-	-	-	-		
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-		
1 昼光率				3.0	-	-	-	-		
2 方位別開口				3.0	-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-		
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-		
3.3 照度				3.0	-	-	-	-		
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-		
4 空気質環境				-	-	-	-	-		
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-		
4.2 換気				-	-	-	-	-		
1 換気量				3.0	-	-	-	-		
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.43	-	-	3.1	
1 機能性				-	-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応			独自	3.0	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-		
3 内装計画				3.0	-	-	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				0.5	2.9	0.52	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			②	-	3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-		
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19	-	-		
1 空調・換気設備			②	3.0	3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			H=4,000m		5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	3.0	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性					3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57				1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-				3.4
LR1 エネルギー					-	0.40				3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-				-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.69	3.0	4.1	0.63				4.1
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25				3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価					-	-				
4.1 モニタリング					-	-				
4.2 運用管理体制					-	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型水栓・便器を採用	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63				3.1
2.1 材料使用量の削減			鋼材量を軽減		4.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自 LGS+GB	3.0	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68				
1 消火剤					-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			フロンガスを使用した発泡剤を使用していない		4.0	0.50				
3 冷媒				3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮			① ライフサイクルCO2排出率85%		3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮				0.3	3.2	0.33				3.2
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用しない。		5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				
3 交通負荷抑制			独自		1.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1 騒音			独自		3.0	0.50				
2 振動			独自		3.0	0.50				
3 悪臭					-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1 風害の抑制					3.0	0.70				
2 砂塵の抑制					-	-				
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物照明を行っていない		4.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

前原第3工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	3.1
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:13.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 前原 第3工場

計画上の配慮事項	
総合	愛知県犬山市に計画された地上3階建て、鉄骨造の工場。 高効率設備や節水器具を採用し、省エネルギー性を高めた。
Q1 室内環境	評価対象外
Q2 サービス性能	階高は4.0m以上とし、壁長さ比率は0.14と、ゆとりある空間となるよう計画した。
Q3 室外環境(敷地内)	見通しの悪い塀などは設けず、植栽を道路に面して配置することで、良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー	高効率の設備を採用することで運用時の消費エネルギー削減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	節水型機器を積極的に採用し、水資源保護に努めた。 分別しやすい仕上げ構成とし、解体時のリサイクル促進に配慮した。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用しておらず大気汚染防止に努めた。
その他	特になし。